

再評価結果（平成18年度 事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：木村 昌司

| | | | | | |
|---|--|--|-------------------------------------|--|--|
| 事業名 ：一般国道9号 益田道路 <small>（益田道路）</small> | 事業区分 ：一般国道（二次改築） | 事業主体 ：国土交通省 中国地方整備局 | | | |
| 起終点 ：自：島根県益田市遠田町 至：島根県益田市須子町 | 延長 ：7.8 km | | | | |
| 事業概要 ：一般国道9号は、京都市から下関市に至る延長約670kmの主要な幹線道路であり、西日本の大動脈として沿道地域の産業・社会活動や住民の生活に大きな役割を果たす重要な路線である。 益田道路は、国道9号の朝・夕ピーク時における交通混雑の緩和、安全・円滑な交通の確保、石見空港へのアクセス強化を図ることを目的とした延長7.8kmの4車線道路である。 | | | | | |
| H8年度事業化 ：H9年度都市計画決定（H15年度変更） H10年度用地着手 ：H12年度工事着手 | | | | | |
| 全体事業費 ：約724億円 事業進捗率 ：46% 供用済延長 ：—km 計画交通量 ：8,100~17,400台/日 | | | | | |
| 費用対効果分析結果 | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;"> B/C：(事業全体) 1.5 (残事業) 3.6 </td> <td style="width: 40%;"> 総費用：(残事業)/(事業全体) 272/648億円 (事業費：246/621億円 維持管理費：27/27億円) </td> <td style="width: 30%;"> 総便益：(残事業)/(事業全体) 989/989億円 (走行時間短縮便益：857/857億円 走行経費減少便益：103/103億円 交通事故減少便益：29/29億円) </td> </tr> </table> | | B/C ：(事業全体) 1.5 (残事業) 3.6 | 総費用 ：(残事業)/(事業全体) 272/648億円 (事業費：246/621億円 維持管理費：27/27億円) | 総便益 ：(残事業)/(事業全体) 989/989億円 (走行時間短縮便益：857/857億円 走行経費減少便益：103/103億円 交通事故減少便益：29/29億円) |
| B/C ：(事業全体) 1.5 (残事業) 3.6 | 総費用 ：(残事業)/(事業全体) 272/648億円 (事業費：246/621億円 維持管理費：27/27億円) | 総便益 ：(残事業)/(事業全体) 989/989億円 (走行時間短縮便益：857/857億円 走行経費減少便益：103/103億円 交通事故減少便益：29/29億円) | | | |
| 感度分析の結果 ：残事業について、感度分析を実施 交通量変動：B/C=3.9（交通量+10%） B/C=3.4（交通量-10%） 事業費変動：B/C=3.3（事業費+10%） B/C=4.0（事業費-10%） | | | | | |
| 事業の効果等 ： 渋滞緩和（円滑なモビリティの確保）… 国道9号及び国道191号の交通渋滞緩和が見込まれる 安全・円滑な交通の確保… 現道の交通事故率の減少が見込まれる 石見空港へのアクセス強化… 空港へのアクセス改善により利便性向上が見込まれる 他13項目 | | | | | |
| 関係する地方公共団体等の意見 ：益田道路は、益田市、津和野町、吉賀町の首長らで構成される「国道9号益田地域道路整備促進期成同盟会」により早期整備の要望（平成17年11月8日）を受けている。 | | | | | |
| 事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 ：自動車交通量の増加に伴い、国道9号及び国道191号の益田市内中心部への流入入において朝・夕ピーク時における交通混雑を引き起こしている。 | | | | | |
| 事業の進捗状況、残事業の内容等 ：用地の進捗状況は、平成17年度末時点で94%（面積比）である。 | | | | | |
| 事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 ：高津ICから須子町間について、平成18年度の供用を目指し、事業を進めているところである。 | | | | | |
| 施設の構造や工法の変更等 ：やばら堤橋等について機能分離型支承の使用等によりコスト削減を図っている。 | | | | | |
| 対応方針 ：事業継続 | | | | | |
| 対応方針決定の理由 ：以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。 | | | | | |
| 事業概要図 | | | | | |



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。